

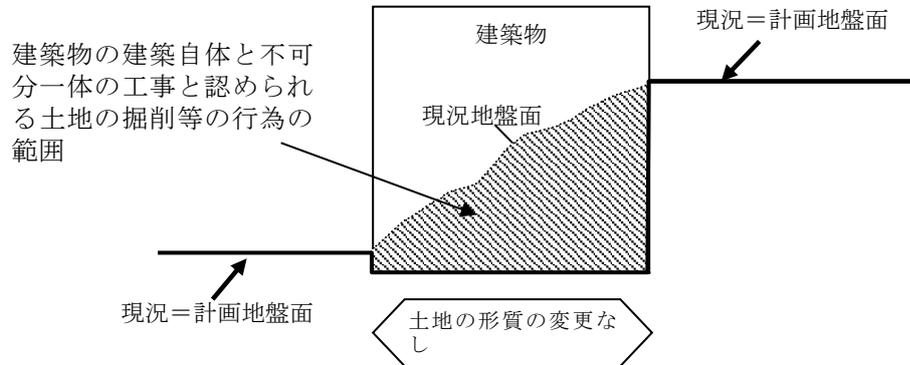
1 宅地造成等規制法に規定する宅地造成についての基準

宅地造成等規制法第2条第2号に規定する「宅地造成」については、宅地造成等規制法施行令第3条で規定されているが、次に掲げる行為については、同条に規定する土地の形質の変更とはみなさない。

- 1 建築物の建築自体と不可分一体の工事と認められる基礎打ち、土地の掘削等の行為（事例1参照）
- 2 宅地造成等規制法第2条第1号に規定する宅地における土地の整地、舗装版の撤去又は施工等を目的とする高さが30センチメートルを超えない切土、盛土又は一体の切盛土（事例2参照）
※宅地以外の土地を宅地にする場合は本号の対象外。
- 3 花壇等の修景施設を設置、変更又は撤去する行為。ただし、建築物の計画地盤に影響を与えるものを除く（事例3参照）。
- 4 建築基準法第42条第2項及び同条第3項に該当する道路に接する敷地内で後退が必要な部分又は同法第43条第2項に基づく認定又は許可の規定に適合するために敷地内で後退が必要な部分を後退する行為（事例4参照）
- 5 道路の交差部にすみ切りを設ける行為（京都市建築基準条例第3条の規定に基づく空地整備を含む。）（事例5参照）
- 6 既存擁壁をほぼ同じ位置で造りかえる行為（事例6参照）

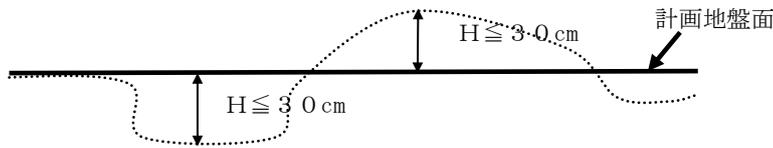
〔事例〕

事例1 建築物の建築自体と不可分一体の工事と認められる基礎打ち、土地の掘削等の行為

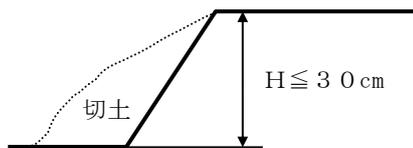


事例2 宅地造成等規制法第2条第1号に規定する宅地における土地の整地、舗装版の撤去又は施工等を目的とする高さが30センチメートルを超えない切土、盛土又は一体の切盛土

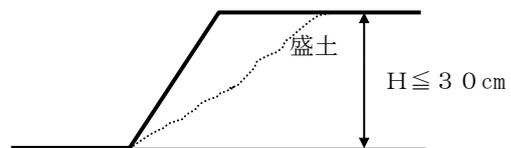
a 土地の整地行為



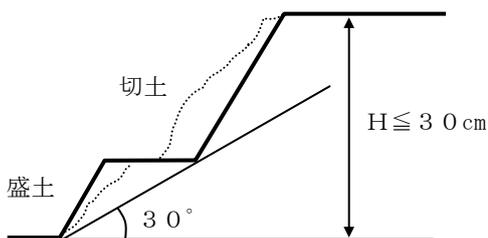
b 切土の場合



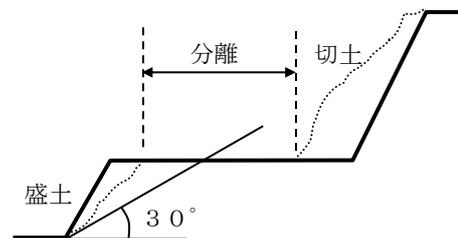
c 盛土の場合



d 一体の切盛土

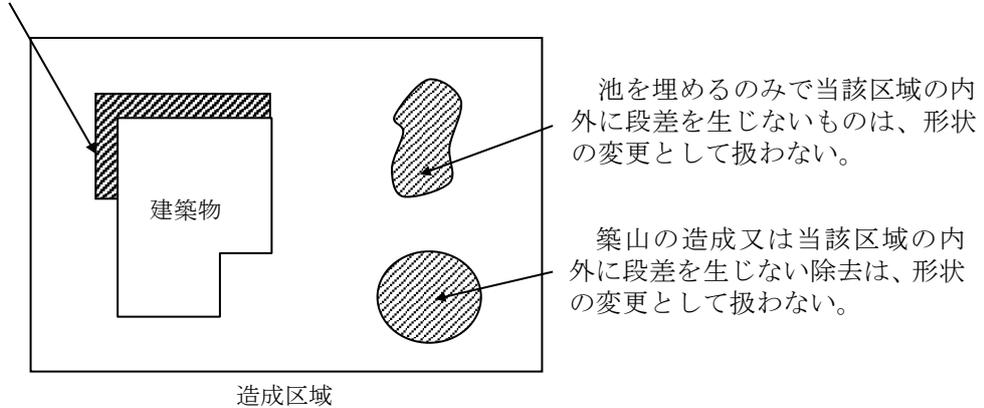


e 注 次の事例については一体的な切盛土とはみなさない



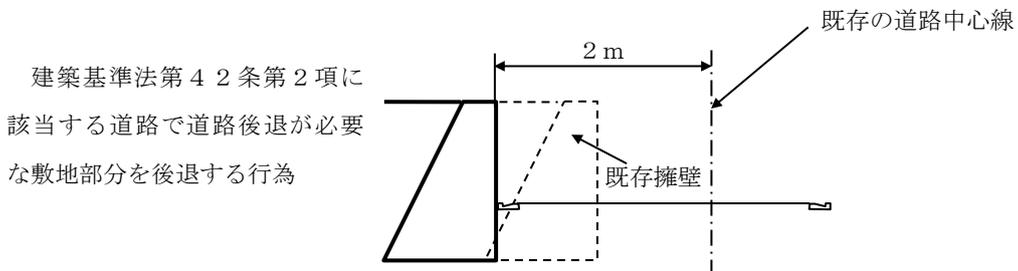
事例3 花壇等の修景施設を設置、変更又は撤去する行為。ただし、建築物の計画地盤に影響を与えるものを除く。

建築物の計画地盤に影響を与えるものについては、修景施設を設置、変更、又は撤去する行為とはみなさない。

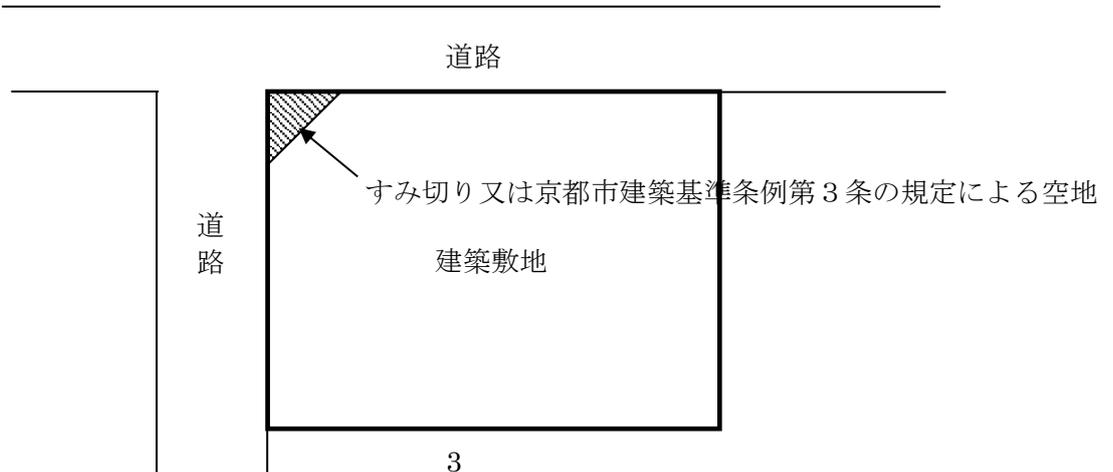


(注)「建築物の計画地盤」とは、建築物が建った後の建築物周辺の地盤のことであり、「建築物の計画地盤に影響を与える」とは、修景施設の撤去(切土)、新設(盛土)等によって、予定建築物の周辺の地盤が変わり、その結果、予定建築物の利用方法・利用形態が変わることをいう。

事例4 建築基準法第42条第2項及び同条第3項に該当する道路に接する敷地内で後退が必要な部分又は同法第43条第2項に基づく認定又は許可の規定に適合するために敷地内で後退が必要な部分を後退する行為



事例5 道路の交差点にすみ切りを設ける行為又は京都市建築基準条例第3条の規定により敷地の一部を空地とする行為



事例6 既存擁壁をほぼ同じ位置で造りかえる行為

注 宅地造成等規制法第15条第2項に基づく届出工事で、擁壁の勾配が緩くなる場合も同様とする。

